



盲学校に通う幼児・児童・生徒は、見えないもしくは見えにくいために、視覚から得られる情報が少ないことが前提にあります。今年4月、赴任してすぐの校内研修で、「直立したまま目を瞑ってみて下さい。」という指示を受けました。言われた通りにやってみると、ふらついて全然立ってられないのです。立位で体幹のバランスを保つうえで、自分が普段いかに視覚を頼りにしているのかがよくわかりました。



幼児期の子どもに関して言えば、運動発達の過程に、視覚がいかに重要な役割を果たしているのかわかります。ハイハイをするときに、お母さんやおもちゃなどの目標物が見えていることで、子どもはさらに自発的に前へ前へと進もうとします。腹這いの姿勢から座る姿勢に移ると、見える景色がガラッと変わること、座りたい気持ちがより一層高まります。立って歩く場合には、自身で体幹を保つことはもちろん、周囲が見えていて安全であることがわかって初めて、怖がることなく足を前に出すことができます。見えにくさのある子どもたちは、例えば、ハイハイで前進することをやりこまないうちに立ててしまうと、手指の感覚を十分に発揮しきれないまま育っていくことになります。このように、視覚に障害があることは、発達の節目を越えるうえで同時に困難さも伴うことになります。

幼稚部のSくん(4歳児・全盲)は、プレイルーム遊びの際、目の前に置かれたミニ平均台を乗り越える課題に主に取り組んでいました。出会った6月頃は、両肘と両膝を床に着けた四つ這い姿勢を取りながら、ごろんごろんと床を転がり少しずつ移動していました。Sくんのすごいところは、先生たちの「Sくん、えーい!」「すごいすごい!」「かっこいい!」という言葉で、嬉しくなってもっともっとやろうとするところです。「手ペアって上手やなあ!」と褒められると、グーに握った手を開く場面が確実に増えてきます。「その足上手やねえ!」と言われると、膝から下を交差しているためになかなか着地しづらかった足先が、徐々に床に着くようになり、足を交差することも減ってきて、自分の両膝と両足でしっかりと体を支えられるようになってきました。そうやって聞き慣れた声を糧にして、自分では見えていない平均台の向こう側へと移動しようとするのです。



Sくんをはじめとする幼稚部の子どもたちの姿から、また私たち教師にとっても、教育は様々な視点と観点で成り立っていると改めて感じさせられます。家とは違う場で過ごしながら、思いを表出したり色々な活動に向かえたりするための安心感、他者を意識して互いに受け入れられるようになる関係性、それらの素地が作られることで、人は「やってみたい」「こうなりたい」「もっとできるようになりたい」という発達要求が出せるようになること。その要求に寄り添いながら、共に育っていくこと。実態や課題、発達段階や立場は違っても、行われる営みはどの人にも共通していると、日々感じさせられています。

【盲分会・中尾久美子】

▼先日、コーヒーのドリップ講習を受けてきました。同じ豆、同じ挽き方、同じ手順、同じ温度のお湯、と条件は同じなのに、なぜか入れる人によって味がちがうんです。それに驚きつつも、マニュアル通りにしても結果が同じにならないことって結構あるよなあ、と思いながら飲みました。結果、どのコーヒーもそれぞれに良さがあったておいしかったです。(編)



ミニコラム

③「きこえの相談」

「こんにちは」と挨拶をすると、はにかみながら部屋に入ってくる子どもたち。「きこえの相談」の場面です。特に初回相談の場合、初めて出会う緊張感と、聴力測定ではどんな反応で答えてくれるのだろうという期待感が、一番高まる瞬間です。

聴力測定は、音が聞こえるとスイッチを押す。それが簡単なようで本当に難しくて。乳児期や重度の方は、スイッチを押すことができない場合も。そんな場合には、視線の動きや表情の変化、体の緊張等のかすかな変化で判断することに。その反応は一人ひとり全く違います。

慎重な子どもは「はっきり聞こえる大きさ」になるまで反応をしてくれません。逆に、音がなくてもスイッチを何回も押したくなる子どももいます。上手く応答できたことを褒めながら、正確な反応かどうか見極めることが必要になります。さらに、同じ音には2回目からは全く反応してくれないことも多く、そんな時は「この辺りが閾値（聞こえる最小値）だろう。」と一発勝負をかけます。それでも難しい時は

次の手、楽器やおもちゃの電子音等を不意に鳴らして反応を探ることになります。なので、店頭で音の出るグッズやおもちゃを見かけるとついつい買ってしまいます。

「音を出すタイミングをあえてずらす」「注意を他に向かせて不意に音を提示する」「不意におもちゃの電子音を鳴らして反応を確かめる」、そんな駆け引きをしながら「やったあ。そうそう。聞こえたね!」「やったー。すごい! すごい!」とラポールを高めながら取り組んでいます。

2年前、久しぶりに教育支援部に戻り、教育相談担当だけでなく乳幼児から成人の方までの聴力測定もさせていただいています。会う度にできることがどんどん増える乳幼児の成長って本当にすごいです。子どもたちに負けないうくらい自分もレベルアップしないと!

「さあ、今日のきこえの相談、どの手から使おうかな。」

【ろう分会・山路哲弘】



「とんとんとん」
あきやまただし 作・絵
金の星社

「ハグタイム」
パトリックマクドネル 作
あすなる書房



ぼちぼちいこか

マイクセイラー / ロバート・クロスマン 作
いばなよしとち 絵



「ぼちぼちいこか」
マイクセイラー 作
偕成社

